

取組みの考え方と目標

別紙

強化施策

取組み項目		取組みの考え方と実施事項		目標(2015年度)																											
温暖化防止 〔低炭素社会の構築〕	CO2の低減	生産	地球温暖化防止は最重要と考えおり、2011～2015年の5年間で、目指す方向を明確し低減推進 〔・効率の悪い設備・機器の更新や既存設備の改良 ・ 高天井照明(水銀灯等)のLED照明化の拡大 ・ 再生可能エネルギー(太陽光発電)の拡大 ・ 断熱塗料の適用(建屋、設備)拡大 〕	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"><CO2></td> <td>基準年</td> <td colspan="2">目標</td> </tr> <tr> <td>グローバル</td> <td>原単位</td> <td>2003年</td> <td colspan="2">33%減</td> </tr> <tr> <td>国内</td> <td>原単位</td> <td>2003年</td> <td colspan="2">28%減</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">本体</td> <td>原単位</td> <td>2003年</td> <td colspan="2">26%減</td> </tr> <tr> <td>排出量</td> <td>2003年</td> <td colspan="2">13%減</td> </tr> </table>				<CO2>		基準年	目標		グローバル	原単位	2003年	33%減		国内	原単位	2003年	28%減		本体	原単位	2003年	26%減		排出量	2003年	13%減	
		<CO2>		基準年	目標																										
		グローバル	原単位	2003年	33%減																										
	国内	原単位	2003年	28%減																											
本体	原単位	2003年	26%減																												
	排出量	2003年	13%減																												
物流	輸送効率の向上による低減 〔顧客に近い物流センターに、各工場から、トラック満載で集荷することにより、トラックの便数を大幅に減らしCO2を削減〕	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"><物流CO2></td> <td>基準年</td> <td colspan="2">目標</td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>原単位</td> <td>2003年</td> <td colspan="2">37%減</td> </tr> </table>				<物流CO2>		基準年	目標		本体	原単位	2003年	37%減																	
<物流CO2>		基準年	目標																												
本体	原単位	2003年	37%減																												
製品	・車の燃費性能向上に繋がる、ゴム・樹脂部品の軽量化設計・材料開発の推進(ゴムの高発泡押出技術、電気自動車向け軽量化製品・技術の開発等) ・新エネルギー動向に対応した新領域製品・技術の開発(高圧燃料タンク、車載用電池周辺部品の開発を推進)	—																													
5ガス ※1の低減	・CO2より、温暖化係数が遥かに大きい5ガスの低減に取り組む 〔マグネやLED製造用ガス(HFC, PFC, SF6)の代替化等を推進〕	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"><5ガス></td> <td>基準年</td> <td colspan="2">目標</td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>排出量</td> <td>2003年</td> <td colspan="2">75%減</td> </tr> </table>				<5ガス>		基準年	目標		本体	排出量	2003年	75%減																	
<5ガス>		基準年	目標																												
本体	排出量	2003年	75%減																												
環境負荷低減 〔循環型社会の構築〕	排出物の低減	生産	・歩留り向上等による発生源対策に加え ゴム・樹脂・金属の社内リサイクルをTGグループで推進 〔3層ゴム材料製品の脱硫再生、表面加飾樹脂の分離・リペレット化〕 ・埋立廃棄物ゼロ化の継続(ゼロの定義:1998年度比0.5%未満)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"><排出物></td> <td>基準年</td> <td colspan="2">目標</td> </tr> <tr> <td>国内</td> <td>原単位</td> <td>2003年</td> <td colspan="2">48%減</td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>原単位</td> <td>2003年</td> <td colspan="2">50%減</td> </tr> <tr> <td>海外</td> <td>実態把握後低減活動推進</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>				<排出物>		基準年	目標		国内	原単位	2003年	48%減		本体	原単位	2003年	50%減		海外	実態把握後低減活動推進							
		<排出物>		基準年	目標																										
		国内	原単位	2003年	48%減																										
	本体	原単位	2003年	50%減																											
海外	実態把握後低減活動推進																														
物流	・包装仕様のスリム化、容器のリターナブル化の拡大による包装材使用量の低減	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"><梱包材></td> <td>基準年</td> <td colspan="2">目標</td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>原単位</td> <td>2003年</td> <td colspan="2">70%減</td> </tr> </table>				<梱包材>		基準年	目標		本体	原単位	2003年	70%減																	
<梱包材>		基準年	目標																												
本体	原単位	2003年	70%減																												
製品	・資源有効利用に向けた、リサイクルしやすい製品設計と技術開発の推進 〔製品構成の簡素化(複合材⇒単一材)、分離しやすい製品構成化(金属インサートレス)等〕	—																													
水使用量の低減	・資源としての水の有効利用はもとより、省エネや排水負荷の低減にも、効果が大きいことから水使用量の低減に取り組む 〔使用量の多い冷却水のろ過処理による排水の再利用等を全工場で開催し水使用量を低減〕	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"><水></td> <td>基準年</td> <td colspan="2">目標</td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>原単位</td> <td>2003年</td> <td colspan="2">30%減</td> </tr> </table>				<水>		基準年	目標		本体	原単位	2003年	30%減																	
<水>		基準年	目標																												
本体	原単位	2003年	30%減																												
環境負荷物質管理・低減	VOC ※2の低減	・塗料・洗浄シナーの材料代替化・使用量最適化による低減推進(塗料の水溶性化や無溶剤化等の拡大)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"><VOC></td> <td>基準年</td> <td colspan="2">目標</td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>原単位</td> <td>2003年</td> <td colspan="2">65%減</td> </tr> </table>				<VOC>		基準年	目標		本体	原単位	2003年	65%減																
	<VOC>		基準年	目標																											
本体	原単位	2003年	65%減																												
製品含有化学物質の管理充実	・グローバルな製品含有化学物質管理の推進 〔・中国における化学物質管理システム※3への対応 ・グローバルな法規・化学物質規制情報の収集〕	—																													

※1 5ガス:フロン系ガス等〔HFC: Hydrofluorocarbon(ハイドロフルオロカーボン)、PFC: Perfluorocarbon(パーフルオロカーボン)、SF6:六フッ化硫黄〕、メタン(CH4)、窒素系ガス(N2O:亜酸化窒素)

※2 VOC: Volatile Organic Compounds(揮発性有機化合物)

※3 化学物質管理システム: 車両構成部品の化学物質情報を入手、管理するツール

取組み項目		取組みの考え方と実施事項	目標(2015年度)
地域社会との連携 〔自然共生社会の構築〕	工場の森づくり 〔サステナブルプラント〕	<ul style="list-style-type: none"> その土地にあった自生種が混生しており、地震や火災などに強い本物の森づくり活動を推進することにより、社員の一体感醸成に加え地域社会との融合を図る 〔国内外の約60拠点に約60万本を植樹 ・国内外13拠点、18万本を植樹('13年3月末予定) ・国内拠点の拡大、更には北米拠点への展開〕 〔再生可能エネルギー(太陽光発電)の導入拡大〕 	<p>2020年度までに 国内外60拠点、60万本を植樹</p> <p>今後5年間で全購入電力ピーク実績の1%以上の再生可能エネルギー(太陽光)を導入</p>
	社会貢献活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアセンターによる地域美化活動等への参画 〔グローバル一斉の社会貢献活動の実施〕 関連事業への支援継続(トヨタ白川郷自然学校等) 	年間一人1活動以上の参画
	環境政策への貢献	外郭団体等の環境政策への貢献と提言(自動車部品工業会、ゴム工業会等)	_____
環境経営 環境意識の向上・マネジメント	環境意識の向上	<p>従業員の社会貢献への自発的な取組みに向けた、一人ひとりのエコ意識向上活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 〔社内報活用による情報提供と啓蒙 ・工場の森づくりを通じ、生態系保護と地球温暖化対策の啓蒙 ・環境月間行事のグローバル展開 ・実務でのエコ活動実践に結びつく環境教育の推進〕 	各種施策を通じて 従業員の社会貢献、環境意識の向上
	連結環境マネジメントの強化	<p>グローバル連結環境マネジメント体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 〔順法管理の強化(現地点検等) ・環境負荷低減活動の推進(CO2、排出物低減等)〕 	_____
	ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・材料・製品等仕入先と連携した活動の一層の充実 〔当社へ納入される部品、原材料、生産設備等に含まれる環境負荷物質の管理充実 ・仕入先における環境関連法令等の順守及び自主的な環境パフォーマンス向上活動の要請〕 	_____
	環境情報の開示	<ul style="list-style-type: none"> ・TGLレポートの発行継続(毎年1回:7月) (CO2排出量、排出物量、水使用量等の情報公開) 	TGLレポートの発行(1回/年)
	製品開発における環境影響評価(LCA※4)の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・製品の環境負荷低減等の取組み度合いを定量化した独自のしくみに基づき評価 (CO2排出量に加え製品リサイクル性も評価) 	_____
環境に優しいLEDメーカーとしての貢献	社内でのLED活用拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・全社の照明を検査工程、オフィス、生産工程の順にLED化 〔現在設置してある工場・オフィスの蛍光灯約7万本をLED照明へ更新('13年3月末完了予定)〕 〔高天井照明(水銀灯等)のLED照明化の拡大〕 	高天井照明のLED照明化('16年3月末)
	LED事業の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に優しいLEDを、テレビ・照明分野等、より多くの製品への採用拡大につなげ低炭素社会の構築に寄与 	_____

※4 LCA: Life Cycle Assessment [製品の生産・使用・廃棄にいたるライフサイクルでの環境影響(CO2排出量等)を評価すること]